

第10期活動報告書

平成28年4月1日～平成29年3月31日

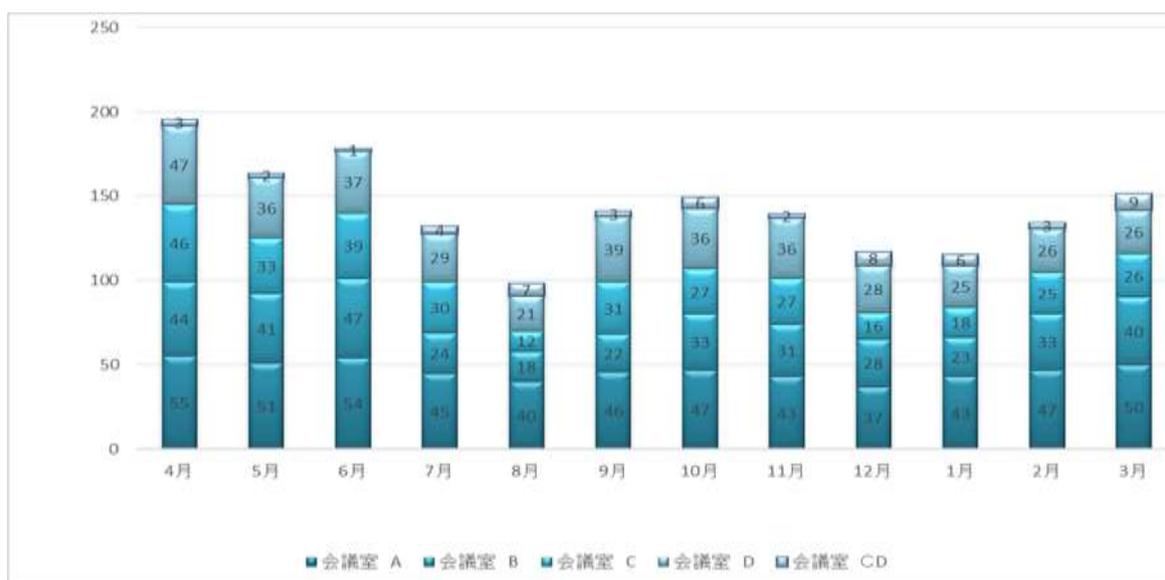
I 委託事業

1. あしや市民活動センター（以下、活動センター）の指定管理業務

(1) 会館の管理運営業務（定款①）

・会議室A・B・C・Dを貸し出した。平均稼働率は54%であった。

	稼働日数	稼働回数	会議室 A		会議室 B		会議室 C		会議室 D		会議室 CD		合計	
			回数	稼働率 (%)	回数	稼働率 (%)	回数	稼働率 (%)						
4月	25	75	55	73%	44	59%	46	61%	47	63%	3	4%	195	65%
5月	23	69	51	74%	41	59%	33	48%	36	52%	2	3%	163	59%
6月	26	78	54	69%	47	60%	39	50%	37	47%	1	1%	178	57%
7月	25	75	45	60%	24	32%	30	40%	29	39%	4	5%	132	44%
8月	26	78	40	51%	18	23%	12	15%	21	27%	7	9%	98	31%
9月	24	72	46	64%	22	31%	31	43%	39	54%	3	4%	141	49%
10月	25	75	47	63%	33	44%	27	36%	36	48%	6	8%	149	50%
11月	24	72	43	60%	31	43%	27	38%	36	50%	2	3%	139	48%
12月	22	66	37	56%	28	42%	16	24%	28	42%	8	12%	117	44%
1月	22	66	43	65%	23	35%	18	27%	25	38%	6	9%	115	44%
2月	23	69	47	68%	33	48%	25	36%	26	38%	3	4%	134	49%
3月	26	78	50	64%	40	51%	26	33%	26	33%	9	12%	151	48%
合計	242	795	558	70%	384	48%	330	42%	386	49%	54	7%	1,712	54%



・NPO 関連の図書、プロジェクター、折り機等機器を無償で貸し出した。

(2) 相談業務 (定款②)

【相談対応の状況】

<相談件数は3割増加>

- ・相談件数の総数は308件、相談対応時間は8430分(140.5時間)であった。
- ・前年比で相談の総数は28%増加、相談対応時間は約16%増加している。
- ・各月別では4月から11月にかけて相談件数は月25件程度で推移、もっとも多かった月は6月と3月であった。

<ボランティアに関する相談の増加>

- ・相談内容の内訳は、NPO設立が12件、団体の運営が86件、リードあしやの登録に関するものが10件、リードあしやの利用方法に関するものが14件、ボランティア活動が47件、ボランティアの受け入れに関する相談が35件、広報に関するものが16件、行政からの相談が26件、自治会からの相談が13件、パソコン相談が14件、その他が35件だった。
- ・前年度と比較すると、ボランティア活動したい相談とボランティアを受け入れたい施設や団体からの相談が非常に増えており、それぞれ約70%、約147%増加している。

<相談方法の変化>

- ・相談方法の内訳は、来所175件(57%)、電話94件(32%)、メール22件(7%)、訪問が16件(5%)だった。
- ・前年度と比較すると、全般的な傾向は似ているが、訪問相談が前年度0件だったのに対し16件だった。相談者だけでなく、複数の関係者と顔を合わせることができ、現場(施設や地域など)の様子も感じることもできた。

<登録団体からの相談>

- ・登録団体からの相談は88件、全体の28.5%と前年度の40%からさらに割合は減少している。

<その他>

- ・自治会からの相談は、前年度6件だったのに対しおよそ倍に増え13件だった。

【分析】

- ・ボランティアに関する相談の増加は、ボランティア活動のすそ野を増やすため、館内やウェブサイトにはボランティア情報を掲示したり、ボランティア講座を開催したりといった今年度力を入れてきた成果と考えられる。

- ・行政や自治会からの相談も増加の傾向である。行政内部で当センターの認知が多少は広まってきたのではないと思われる。自治会からは内部では解決の難しい問題なども寄せられている。NPOに限らず多様な団体の相談受け皿になっている。
- ・登録団体からの相談は、PC相談が半数以下に減っており、登録団体は一定のスキルアップが達成できていると思われる。
- ・登録団体以外の相談が増えてきている。当センターの認知度が広まってきていると思われる。

【今後のアクション】

<団体設立の講座開催>

- ・団体設立の相談がやや少なくなっている。また設立時に内部での十分な協議や準備がないために運営に際し問題が発生しているケースが見受けられた。2017年度は、設立に絞った講座を実施し丁寧な設立準備ができるよう支援する。

<個別相談に対応>

- ・今年度は福祉的課題のケースに数件、対応した。既存の機関では対応されなかったり、どこに相談してよいかわからないといったケースが福祉機関等から回ってきた。福祉的ニーズに対しては行政や社会福祉協議会が一義的には対応すべきだが制度の中では収まりきらない問題や不可視化された問題がある。センターとして対応範囲等を一律な線引きではなくその都度考えて動きたい。

<つないで動かす>

- ・施設のボランティアニーズの相談に対し社会貢献したいグループをつなげ、発展的なプロジェクトに育っていきつつある案件がある。企画からともに考える場としてニーズをとらえ直すことで、「人材紹介」支援にとどまらない、市民活動の場として発展する可能性が広がっている。2017年度も、ニーズをシーズ（種）と捉え、つなぐだけではないコーディネートを展開する。

(3) 市民活動団体の相互の交流とネットワーク支援事業（定款⑤）

- ・5月23日（月）から6月11日（土）芦屋市内3中学校の「トライやる・ウィーク」を受け入れた。（報告9頁）
- ・6月11日（土）第9回あしや市民活動フェスタを開催した。（報告10頁）
- ・8月5日（金）6日（土）夏休み子どもスペシャルを開催した。（報告13頁）
- ・9月16日（土）AED講習会を開催した。（報告14頁）

- ・10月19日(水) 公光分庁舎全館と利用者で避難訓練を実施した。(報告14頁)

(4) セミナー事業 (定款④)

- ・4月23日(土) 登録団体向け報告書決算書の書き方講座を開いた。(報告15頁)
- ・5月28日(土)、11月5日(土) はじめてみよう初心者のためのボランティア講座を開いた。(報告16頁)
- ・9月～3月第2回リードあしや登録団体自主講座企画応援事業において5団体の申請があり、「芦屋「九条の会」」「NPO法人「絵本で子育て」センター・絵本講師の会」「芦屋Tioクラブ」の3団体の講座支援をした。(報告19頁)
- ・10月8日(土)、22日(土) NPO・ボランティアグループのためのかきかた講座1回目「なるほど! 伝わるチラシの作り方」2回目「プロに学ぶ! 伝わる文章の書き方」を開いた。(報告18頁)
- ・12月9日(金) ボランティア受け入れの基礎講座を開いた。(報告18頁)

(5) 市民参画及び協働に関する情報収集と提供業務 (定款②)

- ・活動センター内で、ラック・パネルなどを活用して団体情報を掲示している。
- ・季刊紙「リードあしや」33号を6月27日、34号を9月26日、35号を12月21日、36号を3月15日に発行した。
- ・ホームページで、登録団体のイベント告知や芦屋市の情報等の情報を発信した。
- ・市民活動関係図書を購入し、自由に閲覧できるようにしている。
- ・ボランティア募集ボードや、アンケート報告を掲示している。
- ・3月2日(木) 芦屋市企画部市民参画課主催「市民参画協働推進会議」において平成28年度芦屋市立あしや市民活動センターの状況を報告した。

(6) ボランティアコーディネーション (定款⑦)

- ・4月2日(土)、4月3日(日)「第28回芦屋さくらまつり」(報告20頁)
- ・10月9日(日)「あしや秋まつり」(報告21頁)

(7) 調査・研究事業 (定款③)

- ・登録団体の登録申請書及び、報告書の記入内容を見直し、様式の改善案を提案した。

(8) 市内中間支援団体交流事業 (定款⑤)

- ・8月12日(金) に中間支援組織の交流を目的とした会議を、あしや市民活動センターの指定管理者である当法人を含む三者(特活)芦屋市体育協会(芦屋市体

育館)、(特活)芦屋市国際交流協会(潮芦屋交流センター)で開催した。

- ・12月15日(木)上記の団体で次年度以降つながっていくための意見交換をした。

(9) 地域課題解決の仕組みづくり会議(定款⑥)

- ・(特活)芦屋市手をつなぐ育成会、smile ねっと、精中応援隊、芦屋市公光郵便局、芦屋市商工会青年部、(社福)芦屋市社会福祉協議会、こくさいひろば芦屋、芦屋法律事務所の8団体と市民参画課とで協働する会議体、通称「あしや笑顔ネット」が生まれた。
- ・今年度は子どもの課題に特化し通称「あしや子ども笑顔ネット」として、会議を7回開いた。成果としては、市内の多種多様な団体と繋がり、子どもの居場所を作る為に「777プロジェクト」事業が立ち上がった。

(10) 他市からの視察受け入れ(定款⑥)

- ・10月24日(月)長野県駒ヶ根市こまがね市民活動支援センター「ぱとな」(報告23頁)

(11) 自主事業

- ・印刷機、コピー機を貸し出し、印刷に関する助言及び支援を行った。
- ・交流スペースで9団体15回の作品の展示、販売の場を提供した。
- ・9月3日(土)に情報交換・団体交流会を開催した。(報告24頁)
- ・利用者のくつろぎの場として自動販売機を設置し飲食物の販売を行った。

平成28年度 施設・備品利用料収入

	印刷機	コピー機	印刷合計	ラミネート・スキャン	交流スペース利用	合計
4月	72,243	159,910	232,153	3,560	0	235,713
5月	65,104	235,270	300,374	1,257	1,700	303,331
6月	64,161	216,520	280,681	2,124	800	283,605
7月	38,958	160,500	199,458	1,240	600	201,298
8月	45,127	122,980	168,107	2,220	0	170,327
9月	74,349	185,685	260,034	1,760	0	261,794
10月	75,649	138,770	214,419	1,840	1,900	218,159
11月	30,924	212,510	243,434	1,680	0	245,114
12月	40,565	166,298	206,863	560	0	207,423
1月	25,856	90,600	116,456	80	200	116,736
2月	43,113	206,800	249,913	640	1,800	252,353
3月	66,865	197,045	263,910	960	1,100	265,970
合計	642,914	2,092,888	2,735,802	17,921	8,100	2,761,823

(12) 研修

- ・スタッフ向けに内部研修を10回行った。
- ・平成28年度第1回災害ボランティアセンター運営者研修に参加した。

2. 芦屋自治会連合会ホームページ作成および維持管理（定款⑤）

- ・芦屋自治会連合会より受託し14回の更新を行った。内1回はウェブデザインに関するものであり、外部に委託した。

3. 芦屋市自治会連合会まちづくり懇談会事業（定款⑦）

- ・11月24日(木)芦屋市自治会連合会から受託し、議事録を作成した。

4. 芦屋市人事課特別研修（定款④）

- ・1月27日(金)芦屋市人事課から受託し、市職員向けに協働についての研修を行った。

II 独自事業

1. はじいち助成事業（定款⑤）

- ・子どもや若者が主体的に社会参加するための力を育成する事業を支援する助成金事業に取り組み、「こくさいひろば芦屋」「茶屋之町自治会」の2団体を助成した。

2. セミナー事業（定款④）

- ・2月18日(土)ソーシャルメディア活用術として「Facebook はじめの一步」講座を開いた。(報告25頁)

3. 講師派遣事業（定款④）

- ・8月31日(水)神戸市社会福祉協議会神戸市こころの健康センター「精神保健福祉ボランティア講座」「ボランティア活動とは」～ボランティアの魅力～
- ・2月22日(水)柏原市社会福祉協議会「傾聴ボランティア養成講座」

4. 他団体への後援・協力（定款⑤）

- ・5月6日(金)～9日(月)芦屋市と芦屋大学主催の熊本地震災害地支援ボランティアに参加
- ・7月8日(金)「社会を明るくする運動市民の集い」に参加
- ・芦屋市福祉部社会福祉課管理係の要請で熊本地震兵庫義援金募金箱を設置

- ・ 11月8日(火)(特活) 芦屋市国際交流協会主催「芦屋市・モンテベロ市姉妹提携55周年記念祝賀会」に参加
- ・ 11月27日(日)「東日本震災支援芦屋ユナイテッドリレーマラソン2016」に協力
- ・ 11月2日(水)～8日(火)「第9回芦屋市障がい児・者作品展」に協力
- ・ 当法人のホームページを利用した市民団体の広報支援を開始
- ・ 3月11日(土)、20日(月)音楽ボランティア支援センターと共催で音楽ボランティア養成講座を開催

5. 情報提供事業(定款②)

- ・ 6月20日にNPOセンター通信7号を発行し、会員及び他団体へ郵送した。
- ・ 法人のホームページに市民活動団体の発信力、社会的認知を高めるために、イベント情報の掲載や動画をアップした
- ・ 6月から毎月ボランティア活動や市民活動のイベントを中心としたメールマガジンを発信した。

6. 各団体の委員等

- ・ 5月20日(金) 第2回芦屋市地域福祉計画策定委員会
- ・ 5月26日(木) 第1回社会教育委員の会議
- ・ 6月23日(木) 7月12日(火) 8月18日(木) 9月7日(水) 2月6日(月) 3月6日(月) 3月28日(火) 地域福祉課芦屋市地域福祉計画に係る検討部会
- ・ 7月13日(水) 兵庫県社会教育委員協議会総会並びに研修会
- ・ 7月14日(金) 第2回社会教育委員の会議
- ・ 7月21日(木) 阪神南地区社会教育委員協議会役員会(総会)
- ・ 8月29日(月) 9月6日(火) 芦屋市自治会連合会主催「自治会等の活動活性化策検討委員会」
- ・ 8月3日(火) 2月18日(土) こくさいひろば芦屋主催「レインボー芦屋基金委員会」
- ・ 9月9日(金) 3月29日(水) 西宮市市民交流センター運営委員会
- ・ 9月30日(金) 11月4日(金) 1月30日(月) 地域福祉計画策定委員会
- ・ 10月13日(木) 第3回社会教育委員の会議
- ・ 11月14日(月) 兵庫県社会教育委員研究大会
- ・ 12月16日(金)「災害時ボランティアに係る連絡調整会議」

- ・ 3月19日(日) こくさいひろば芦屋主催「スピーチ大会・キャリアアップ応援金贈呈式」
- ・ 3月22日(水) 芦屋市女性活躍推進協議会
- ・ 3月27日(月) 第5回社会教育委員の会議

7. 団体間の交流(定款⑥)

- ・ 9月2日(金) 1月20日(金) 関西NPO支援センターネットワーク(KNN)に参加し情報交換を行った。
- ・ 11月17日(木) 2月17日(金) ひょうご中間支援団体ネットワークに参加し情報交換を行った。

8. 市町・市区町社会福祉協議会連携等会議(定款⑥)

- ・ 9月13日(火) 兵庫県内の社会福祉協議会、行政、NPO団体が、災害ボランティアの役割と他団体との連携を話し合った。
- ・ 3月19日(日) ひょうごボランタリープラザ中間支援助成「中間支援を知り、考えるNPOバスツアー」に会場を提供し、意見交換会に参加した。

Ⅲ. 組織運営

1. 会員

- ・ 正会員：個人11人／団体8団体
- ・ 賛助会員：個人18人／団体8団体

2. 会議

- ・ 理事会
 - 4月22日(金) 第1回理事会 総会開催内容討議
 - 5月14日(土) 第2回理事会 正副理事長選任
 - 8月25日(木) 第3回理事会 定款の変更
 - 12月9日(金) 第4回理事会 平成29年度事業企画事務局案審議
- ・ 4月22日(金) 平成27年度監査
- ・ 5月16日(土) 第10期定期総会
- ・ 5月16日(土) 会員、賛助会員対象の研修会
- ・ 事務局会議
 - 毎月1回全員出席で開催。毎朝10分程度の申し送りを兼ねた朝礼を行った。
- ・ 指定管理者企画会議
 - 毎月1回、市民参画課と受託内容の確認を行った。

トライやる・ウィーク受入事業

- 1 実施日：平成28年5月23日(月)～6月11日(土) 9:00～15:00
- 2 担当：橋野
- 3 対象学校：精道中学校3人、山手中学校3人、潮見中学校2人
- 4 協力団体：(社福)三田谷治療教育、(認特)フードバンク関西
- 5 目的：ボランティア、NPOとは何かを理解してもらい、市民活動団体の支援の場である市民活動センターの存在を若い世代からわかってもらうこと。
- 6 内容：1日目：センターの機能を知る。(センター内ふしぎ発見と機器体験)
2日目：ボランティアとは(障がい者施設の訪問と座学)
3日目：NPOとは(NPO団体の活動体験と座学)
4日目：相談とコーディネーションの学び等と振り返り
5日目：成果発表会、フェスタ
- 7 評価：他団体の協力もあり、計画は全体的に充実していた。
学生たちが興味を持ってきている様子が、日々伝わってきた。
中学校の先生方、教育委員会、市職員、団体の方々、様々な大人が関わり、学生たちを応援し、彼らの自信にも繋がったと感じた。
当センターの職員の学びの場ともなった。
潮見中学校の学生3人中、不登校1人、不登校気味1人と言われ困惑したが、中2日が1人、前後は2人であった。学校側の割り当て方法に問題があるように感じる。
フェスタでの司会や販売の役割を期待以上にこなしてもらった。
- 8 成果：成果発表会やフェスタでの発表から、ボランティア、NPOについて理解していることがわかった。学生の毎日の日誌には、保護者のコメントもあり、学生、保護者、当センターの繋がりができ、周知度も高まったように感じた。
- 9 振り返り：5日間で中間支援の意義と意味を理解するのは難しく思えたが、学生たちはそれなりに吸収したようで、成果発表では、参加いただいた皆様に満足していただき、目的は達成したと考える。今後も続ける意義を感じた。

精道中学校



山手中学校



潮見中学校



第9回あしや市民活動フェスタ

- 1 実施日：平成28年6月11日（土）10：00～16：00
- 2 担当：奈良
- 3 参加者数：460名（概算）
- 4 参加団体：18団体
- 5 内容
 - 1) 目的：市民活動の社会的認知を高め、活動へのきっかけをつくる
 - 2) テーマ：社会とかかわるきっかけの一步をみつけよう
 - 3) 内容：未来をつくる市民カフェと聴く・観る・体験する
 - 4) 振り返り：
 - ・常に人が流れており賑わいがあった。来場者の反応の取り方不十分で、フィードバック方法を検討すべきだ。
 - ・ボランティアの確保ができなかった。6か月程度前からボランティアを募り、実行委員会形式でできないか検討。

- ・トライやるウィーク参加者（潮見中学2名）が、司会、販売、展示、準備に大いに活躍してもらえたことは、生徒にとって新しい経験になり、出演者、メインプログラム参加者にも好評だった。課題としては、先に終了した2校の生徒をフェスタに巻き込むのが難しかった。
- ・多様な世代が訪れたが、実質若い世代へのアプローチができておらず、今後は、ターゲットの設定を検討すべき。
- ・社会と関わるきっかけの一步をみつけよう、敷居の低いプログラムで、市民活動にまず慣れ親しんでもらえるようなコンセプトにした。
- ・コンパクトな会場設定にしたため賑わいを演出できた。
- ・買い物の場所を別に設けたため、混乱がなかった。
- ・広い控室を設けたため、打合せ場所としても活用できた。
- ・公立高校の文化祭等と重なった。ターゲットの設定にもよるが、学校行事との兼ね合いを検討する。
- ・市民活動の基盤である市民社会と憲法の意味、重要性について考える機会を提供できた。硬いテーマにもかかわらず参加者がまずまずそろった。このテーマは独立して今後も取り上げることを検討。（芝居など）学生を巻き込むためリサーチする必要がある。
- ・団体の魅力発見「いいね」には、中学、高校など若い世代の出展や自治会に出展してもらうことができ、多様な団体に参加してもらえた。参加団体数が少ない、登録団体の関心が乏しい掲示物作成、プレゼンに慣れていない団体もあり、登録団体への呼びかけ、企画への巻き込みを検討、掲示物作成、プレゼンのアドバイスを充実させることが必要と感じた。
- ・食品は完売、おむすび・惣菜（おむすびやえんむすび）各200、100個、お菓子（みどり福祉会）20個、Tシャツ13点、小物17点、売上33800円と物品販売も好調だった、B会議室設定はよかった。
- ・館内の掲示がわかりやすかった。館外の掲示が東西道路に出してわかりやすかった。
- ・広報は、広報あしや、市HPに掲載、子ども向けには小中学校11校に配布公共施設への配架、市内掲示板への掲示、本庁内に掲示。プレスリリースで読売新聞に掲、JCOMでの告知放映、交流スペースでの1週間掲示。

夏休み！わくわくスペシャル～みんなで宿題をやっつけよう～

- 1 実施日：平成28年8月5日（金）6日（土）10：00～15：00
- 2 担当：奈良
- 3 参加者数：103名（実際の人数）＊2日間延べ人数141名
- 4 ボランティア：大学生ボランティア4名、ACにろく会8名
- 5 協賛団体：4団体（芦屋東ライオンズクラブ、INAC神戸（1人）、コープこうべ（4人）、ダイエーグルメシティ芦屋浜店）
- 6 プログラム：20コマ
- 7 振り返り

1) 目的：

子どもたちが夏休みの宿題に取り組むことを通じて、地域の市民活動団体やボランティアの人びとと関わったり他校の子どもたちと触れ合ったりする場をつくること。また子どもに関わる課題ニーズを探ること。

2) 成 果 :

【目的との合致性】

- ・ 予定の人数を大幅に上回る参加者がありニーズに合っていた。
- ・ 夏休みの宿題をテーマにしたことで子どもたちが集まりやすかった。
- ・ 他校の子どもたちと交流し、普段出会わない大人たちと関わることができた。
- ・ できるだけ拘束しないこととし、子どもたちが自由に判断し行動する環境を一定つくることができた。
- ・ 夏休みの宿題が完了した子どももいた。
- ・ 外国にルーツをもつ子どもたちも 8 名参加し宿題に取り組んだり、新しい友だちと交流できた。
- ・ 顕在化している課題とともに潜在的な問題も認知できセンターとして取り組むべきテーマを探ることができた。

【協働性】

- ・ 地域のグループからボランティアの手が挙がり主体的に活動してもらえた。
- ・ 自発的にプログラム提供を申し出た個人もあり、新しいプログラム追加につながった。(折り紙絵本づくり)
- ・ 外部団体や企業とともにプログラムを開発し提供でき、今後の協働可能性につながった。

【経済性】

- ・ 参加費無料にしたため、多様な子どもたちが参加しやすかった。
- ・ 協賛を得られたため、予算を圧縮できた。

3) 改善点 :

- ・ 通常の間管理業務と並行してイベントを運営しなければならないため、スタッフが不足した。人材の確保は必須。当日だけでなく事前にボランティアチーム育成を検討したい。
- ・ 準備のため原則予約制にし、参加人数を把握する。
- ・ 会場設定の工夫必要。ニーズに対して会場規模が不十分だった。他施設と協働を模索するのも一案か。
- ・ 参加の方法や約束事の周知が口頭レベルになり不徹底だった。参加ガイドブックを作成し全員配布したい。
- ・ 保護者間の口コミが強力でコントロールは難しかった。広範な広報は不要だったが、的確な広報手段は検討必要。

「AED講習・交流会」

1 実施日：平成 28 年 9 月 16 日（金）13：30～16：00

2 担 当：出口

3 参加者数：男女共同参画センター 2 名 経済課 3 名
市民参画課 2 名 リードあしや 3 名 計 10 名

4 内 容：

- ・ 芦屋市消防本部の現状・救急出動体制について話を聞く。
- ・ 心肺蘇生の手順を学び、実技を行う。
- ・ AED の使用方法を学び、AED を使用しながらの心肺蘇生の実技を行う。
- ・ その他の応急処置を習う。(窒息、出血の止血、骨折、やけど、熱中症等)
- ・ 質疑応答 (現場に居合わせた時の初期対処法・AED の取り出し方など)

5 参加者の感想

- ・以前AED講習を受けたことがあったが、内容が少し変わっているので定期的に参加したい。
- ・応急処置が実際に体験できることは、すごく大切なことだと思った。

6 担当者の感想

- ・内容は毎年ほぼ同じであるが、講師によって説明にばらつきがあるように思う。今年度より講師が専任になったため、とても分かりやすく、実技に対して的確な説明があった。

7 今後の対応

今後も職員研修として行うのであれば、職員としての対応なども取り入れた研修内容を消防本部とも相談し、検討していきたい。



公光分庁舎合同避難訓練

- 1 実施日：平成28年10月19日(水) 13:30~14:30
- 2 担当：出口
- 3 参加者数：職員7名・当日会館利用者2名
- 4 内容：公光分庁舎北館1階給湯室にて出火
 - ・出火場所確認
 - ・職員は各担当の活動を行い、避難訓練をする。(役割分担表参照)
 - ・水消火器で使い方を学ぶ。
 - ・消防本部より訓練についての講評を聞く。

5 全体の振り返り

	実際に行った活動	改善
初期消火	担当者が消火器を1本持って消火に向かった。	できるだけたくさんの消火器を持って消火に向かう。
避難指示	非常ベルが鳴る中で、地声で指示を出した。	ベルで声が聞こえないので、拡声器(常備なし)が必要。
負傷者の避難	車いすでの避難を想定していたが、外階段が狭く危険なため、負傷者をおぶって避難した。	① 火元によっては、会館外に避難させるだけでも良い。 ② 避難所に避難させるときは、職員だけでなく、周りの住民の助けを呼ぶ。 ③ 毛布等(常備なし)に包み、階段を滑り降りるように避難する。

その他

- ・火元・負傷者の数によっては、担当の変更も必要である。
- ・様々な場所からの出火、職員の数などを想定し、日頃から話し合いの場を持つておく。

6 担当者の振り返り

- ・来館数・職員数から考えて日頃から各課の連携が必要である。

- ・火災だけではなく、地震・津波等さまざまな訓練も実施していきたい。
- ・避難に必要な備品（拡声器、毛布等）の購入を検討していく。

登録団体向け活動報告書の書き方講座

- 1 実施日：平成28年4月23日（土）10：00～12：00
- 2 担当：金子、奈良
- 3 参加者数：30名
- 4 目的：登録団体の報告書様式の改訂に合わせて、活動報告書や決算について改めて学び、運営力を高めてもらう。
- 5 講師：増本 有砂 氏（Office mate）
- 6 概要：
 - 1) 登録制度の目的や報告書の意味について説明（市民参画課）
 - ・制度の説明
 - ・昨年度報告書の問題点の指摘
 - ・改訂した報告書様式の説明
 - 2) 事業報告書の書き方についてレクチャー（奈良 雅美）
 - ・市民活動団体の意味と情報公開の重要性について説明
 - ・事業報告書の記入例を参照しながら、書き方のポイントを確認
 - 3) 収支決算書のポイントについてレクチャー（増本 有砂 氏）
 - ・決算、収支計算書、決算の具体的な方法について解説
 - ・勘定科目の置き方などの説明
 - 4) 質疑応答
 - ・勘定科目に「予備費」を使ってよいか？→予算にはあるが、決算にはない。
 - ・科目ではなく項目でもよいか？→会計用語としては厳密には科目
 - ・研修費と活動費のそれぞれに旅費交通費が入っている。→小分類で旅費交通費を設ける
 - ・収入は0円で個人の寄付で賄っている。→個人の車のガソリン代のうち団体に使ったものをだいたい割り出すこと。普段からメモを作成しておくこと。
 - ・交通費を個々のボランティアが負担、団体の会計に計上するべきか？
→載せる必要ない。
 - ・自分たちは同好会。ボランティア活動している団体は書きやすいが、同好会では書きにくい。イベントは一般にオープンにしているが参加はない。
→一般にオープンにしているスタンスを示し、参加がないことの改善点を洗い出し、より参加しやすい工夫を実施すること。
 - 5) 個別相談
 - ・4件（会計2件、報告書2件）
- 7 評価：参加者アンケートの結果より
事業報告書のレクチャー：よくわかった 45.4% だいたいわかった 54.5%
収支決算書のレクチャー：よくわかった 63.6% だいたいわかった 38.3%
- 8 振り返り（課題と対策）：増本、幾波、山田、金子、橋野、奈良
○講座の進め方・準備
 - ・当日飛び込みがあり予定外の人数となり会場が狭かった。
→定員を把握し、会場を広めにとる。

- ・(当日参加が多くなったため) 資料が不足した。
→申し込みが必要であることを徹底周知する。
- ・資料の示し方が混乱した。
→事前に資料の説明をする。
- ・活動報告書と会計とそれぞれに質疑応答を入れるほうがよかった。
→それぞれで質疑応答を入れる。

○内容について

- ・活動報告書の書き方と収支決算書の書き方をセットでするのはよい。
- ・会計は習熟度別に分ける必要があるので会計講座を別途行うとよいだろう。
- ・年度初めは決算、年度終わりは予算など、時期に応じて行うのもありだろう。
- ・具体的な方法を挙げる。(評価の数値化など)

○次年度の方針

- ・登録団体向けの講座として今年度と同様に行う。事業報告と会計 2時間実施
- ・個別相談は別途日程で行う。
- ・登録団体以外は参加費を有料とする。
- ・会計講座は別途行う。(年度初めと終了時に2回に分ける)

はじめてみよう 初心者のためのボランティア講座

- 1 実施日：平成28年5月28日(土) 14:00~15:30
- 2 担当：奈良
- 3 参加者数：8名
- 4 目的：ボランティアの基本的知識の学び、市民活動に参加する市民の増加
- 5 配布資料：チラシ、レジメ、アンケート用紙、フェスタチラシ、活動先資料
- 6 概要：
 - 1) ボランティアについてのレクチャー
ボランティアの意義、活動分野の広がり、自分に合ったボランティアの見つけ方、ボランティアの社会的な意味、継続するためのコツ 他
 - 2) 具体的な活動の紹介
芦屋市内の活動(福祉、外国人支援、学校、フードバンク、ホストファミリーなど)と芦屋市外の活動(西宮、宝塚、神戸、京都の活動)を紹介し(12事例)、具体的なアプローチの方法を説明
 - 3) 質問
 - ・対等な関係はどのようにして作ることができるか
 - ・キャリアカウンセラーの資格あるので生かせないか
- 7 評価：(参加者アンケート)
【ボランティア活動についての理解】よくわかった7名 だいたい分かった1名
【活動が見つかったか?】
見つかった1名 見つかりそう3名 将来やってみたい2名 わからない0
【自由記述】
 - ・ボランティアの本来の意味等詳しく教えていただきありがとうございました。とても良い時間になりました。
 - ・ボランティアが実際のどのような募集があるのかだけでなく、ボランティアをする上でどのようなことを意識していけば良いのかを考える機会にもなり良かったです。興味の出たボランティアもいくつか有りました。
 - ・一度もボランティアについて学習したことがなかったので、今日は本当に参

加してよかった。気持ちもあらたに今の活動を頑張っていこうと思います。
本日はありがとうございました。

- ・理解を深めることができました。モチベーションが高まりました。
- ・資料も話もとてもわかりやすかったです。何か子供と一緒にできて、時間にあうものなどしてみたいと思いました。ありがとうございました。
- ・すでに芦屋市内で活動しています。私もできることをできるときにできる人が、の思いで自分に関心のあることを楽しく取り組んでいます。ボランティアに関する基礎知識が学べて良かったです。ありがとうございました。
- ・ボランティア活動についてとても参考になりました。

8 成果

- ・今後の活動に実際につながる講座になった。
- ・講座に参加された、高齢者施設のボランティアコーディネーターからボランティアのマネジメントのヒントを伝えることができた。
- ・ボランティアについての「誤解」、有償ボランティアの矛盾性と問題、などについて理解してもらい、ボランティアの価値（対等性、社会的意義など）について伝えることができた。

9 担当者の所感

- ・(自分自身としては) 久しぶりにボランティアの講座を行った。基本的な構成は変わらないが、地域性、世代性などは若干考慮が必要だと感じる。
- ・芦屋市域は、具体的な活動先を探すのには難しさがある。芦屋市域だけでなく、少し広げて周辺地域についても情報開拓をしたい。
- ・参加者によると、ボランティア講座はあまり近隣地域では行われていないもよう。ニーズはあると感じられるので、継続開催を検討したい。

第2回リードあしや自主講座企画応援プログラム

- 1 期 間：平成 28 年 9 月～平成 29 年 3 月
- 2 担 当：奈良
- 3 団体数：応募 5 件 採択：3 件
- 4 目 的：地域の課題解決に資する講座企画を支援することで、団体の育成を図る。
- 5 対 象：あしや市民活動センター登録団体
- 7 内 容：講座企画を公募し、選考を経て 3 団体を採択。財源支援に加え、センター職員が企画案のブラッシュアップや効果的な広報の打ち出しを通じて、より効果的な講座づくりを支援する。
- 8 採択団体：芦屋「九条の会」、芦屋 Tio クラブ、NPO 法人「絵本で子育て」センター
- 9 評価方法：
下記の 6 つの観点について、市およびセンター職員 3 人が 5 段階で評価し、評価者の合計点を比較して原則選考した。
A 本プログラムの趣旨に沿っているか
B 団体の趣旨に沿っているか
C テーマ設定の妥当性があるか
D 社会的ニーズに合致するか
E 社会的インパクトはどの程度あるか
F 費用は妥当か

10 支援内容

「企画運営のアドバイス」、「広報支援」、「資金支援」から応募団体が選択

① 企画運営のアドバイス

「支援シート」

団体ごとに面談、話合いの内容をもとに支援シートを作成。企画の立て方、スケジュール、ポイントを確認しながら、協力して具体化した。

「講座実施報告書」

講座終了後に報告書を提出してもらい、講座を今後につなげる視点で振り返りを行った。

② 広報支援

ちらしのデザイン、広報の方法、ニュースリリースの出し方の具体的な助言を行うとともに、「広報あしや」に掲載を依頼、ウェブサイト（リードあしや、ボランティアプラザ）に掲載した。

③ 資金支援（助成金）

1団体あたり3万円を助成。講師料等に充てられた。

11 各団体の講座

団体名	日程	講座名	参加者数
芦屋「九条の会」	12/17	憲法講座「憲法を変えると何が変わる？」若手弁護士 劇団の劇&トーク	43名
NPO 法人「絵本で子育て」センター	12/8	大人のための絵本の世界 Part 2 ①絵本の絵とことばが伝えてくれるもの	13名
	1/12	②電子メディア時代の絵本の力	14名
	1/21	③ことばの力大人同士のことばのコミュニケーション	9名
芦屋 Tio クラブ	11/10 2/9	ボランティア養成講座「チャレンジ！楽しい腹話術」 全7回	延べ49名

12 振り返り（面談・報告書より）

【全体】

- ・応募団体数は少なかったが昨年度よりも企画案の質が向上していた。
- ・昨年度から支援を継続している団体はより講座の企画や広報が良くなっており、スムーズな運営につながっていた。
- ・報告書をまとめることで、団体にとって次への課題が見えてきた。団体としてのモチベーションにつながっている。

【芦屋「九条の会」】

- ・参加者から好評だったが、若い人たちの参加が少なかった。より広げていきたい。
- ・センターには広報をより協力してほしい。

【芦屋 Tio クラブ】

- ・受講者からは、地域のボランティア活動に参加したり、職場で活用しているなど

実際の現場で生かされている。

- ・腹話術人形が高価なので、なかなか購入しにくいとの声があった。
- ・活動をアピールする場を増やし、メンバーを今後増やしたい。
- ・センターには活動発表の場を設けてほしい。

【絵本で子育てセンター】

- ・2回目の開催。有料化したが受講者は昨年度と比べても減ってない。有料でも大きなハードルになってないようだ。500円は参加してもらいやすく、団体としても運営資金に充てられた。
- ・受講者のアンケートでは86%がとてもよかったと好評。ニーズに合う講座だった。
- ・継続して今後も開催したい。

13 今後の課題・対応

- ・応募団体数が少ない。すそ野を広げるための工夫を考える必要がある。
- ・参加者をより増やせるよう、媒体、コンテンツ、時期を考えた広報支援をしていきたい。

NPO・ボランティアグループのための伝わる表現講座

- 1 実施日：①平成28年10月8日(土) ②10月22日(土) 14:00~16:00
- 2 担当：奈良
- 3 参加者数：①9名 ②10名
- 4 目的：手に取ってもらえる、分かりやすいチラシの作り方および、会報紙や報告書、ニュースレターなど伝わる文章の書き方を通じて、NPO・ボランティアグループの発信力を高める。
- 5 内容：
 - ① なるほど！伝わるチラシの作り方
講師：入江陽子さん(特定非営利活動法人 市民事務局かわにし)
内容：実際のチラシやポスターを例に出して、どこが見やすいのか、見にくいのかを解説しながら、チラシづくりのポイントについて説明された。参加者の持参したチラシを1点ずつ参照しながら改善点を挙げた。ワードを使ってチラシを作るときのコツについても紹介された。
 - ② プロに学ぶ！伝わる文章の書き方
講師：畑野士朗さん(神戸新聞社阪神支局)
内容：伝わる文章とはどういうものか、鉄則を3つ挙げて説明、読者を想定するなど、分かりやすい文章を書くためのポイントと作文のテクニックについても解説された。文章添削では改善のポイントを1つずつ指摘、具体的な修正方法を助言された。また、新聞記事がどのようなプロセスを経て作られていくのかを説明された。
- 6 評価・振り返り：
 - 1) アンケート結果
 - ①よくわかった8名 未記入1名(未提出1名)
 - ・わかりやすい説明だった、いろんな事例が見れてよかった、参考になった、自信がついたなど。
 - ②よくわかった9名 だいたい分かった1名
 - ・受動的でない講座でよかった、思ったより文章を短くできると分かり、目からウロコが落ちた、実際に赤ペン先生していただくという企画は大変良かった。

2) 今後の展開

- ・チラシ作成、文書作成の講座のニーズはあるので次年度も継続したい。
- ・チラシ作成については当センターの印刷サービスのPRと絡めて内容を考えたい。



【講座の様子】



10/8 チラシ作成講座 講師の入江さん

10/22 文章の書き方講座 講師の畑野さん

ボランティア受け入れの基礎講座

- 2 実施日：平成28年12月9日（金）14：00～16：00
- 3 担当：奈良
- 4 参加者数：8名（職員1名含む）
- 5 目的：ボランティアをどのように受け入れられれば、豊かな施設・組織になるのか考える。ボランティア受け入れの具体的な手順やポイントを押さえ、ボランティアとのよい関係を作るための講座。
- 6 対象：現在ボランティアを受け入れている、またはこれからボランティアを受け入れようとする施設や組織の担当者など
- 7 内容：ボランティアマネジメントの基本を確認、ボランティアプログラムの事例検討、ボランティア受け入れの状況について紹介など（参加者から）
 - ①ボランティアが参加する意味
 - ②ボランティアマネジメントのポイント
 - ③ボランティア受け入れの具体的な手順（流れ）
 - ④ボランティアプログラムの事例紹介
 - ⑤参加者からの話題提供、情報交換
- 8 評価：
 - 1) アンケート結果（回収7件）
 - ①講座の内容
よく理解できた6名 だいたい理解できた 1名 あまり理解できなかった0名
 - ②講座の時間
ちょうどよい7名 もっと短い方がよい 0名 もっと長い方がよい0名
 - ③ボランティアの受け入れについて知りたいこと（自由記述）
 - ・市内外のボランティアのリスト
 - ・詳しく教えていただきありがとうございました。まず、受け入れ施設職員の意識を変えていかなくてはと思います。いっぺんには難しいのでできることからゆっくりしていきます。
 - ・すこしずつできることからやっていきたいと思いますので、またいろいろ教えてください。時々、こちらにも足を運ばせていただいて「あ、また来た」と思っただけのようにと思います。その時はよろしくご指導ください。
 - ・受け入れる側の意識作りで、その活動が生きてくるかが決まるのではないかと今日の講座で感じました。その意識をどう伝えていこうかというのが課題になるのかなと思います。
 - ・これから活動していく中ででてくるのではないかと思います。

- ・ボランティア活動の内容で今日のお話は1つの例と聞きました。ボランティアの多方面の1つとして勉強になりました。

④本センターに期待したい支援や要望

- ・今後また地域づくりの中で、社会的孤立を解決するような取組み(10年後)考えてゆきたいです。よろしく願いいたします。
- ・ボランティアという形で社会貢献したり、自己表現できる機会、人を多く生み出していければ。
- ・今まで、利用することがなかったのですが、ボランティア活動等についてまた相談させていただければと思います。
- ・地域と施設のコミュニティが深まればいいと思います。
- ・今後ボランティアを受け入れ、活動していく中で様々な悩みがでてくると思うが、その時に気軽に相談できる機関があるのはありがたいです。

2) 担当者振り返り

- ・本趣旨の講座開催は初めてだったのでニーズに合致するか手探りだったが、まずまずの反応だった。
- ・ボランティア、社会参加へのムーブメントが今一つの芦屋地域で福祉施設の受け入れが一つの前線になると思うので、より丁寧な受け入れにつながるように講座や相談などを通じて支援していきたい。

3) 今後の展開

- ・施設担当者の個別の相談に対応
- ・受け入れスキルアップの講座を検討

【講座の様子】



第28回芦屋さくらまつりボランティアコーディネート

- 1 実施日：平成28年4月2日(土)・3日(日) 8:00~22:00
- 2 参加者数：51名(内7名個人)6団体(44名)
- 3 参加団体：朝日ヶ丘町自主防災会・芦屋学園高等学校・芦屋川カレッジ30期会・尼崎信用金庫阪神芦屋支店・スペシャルオリンピックス日本・兵庫・芦屋プログラム・はたち会AC20期
- 4 活動内容：
ゴミ回収：「燃えるゴミ」「ペットボトル」「ビン・缶」に分けて回収し、ゴミステーションに集める。
休憩所：飲食物の提供。救急時対応。会場の見回り。
受付：ボランティア受付の補助・清掃用具をボランティアに渡す。
ルナホール前：ルナホール前にて、会場客以外の使用の禁止を来場客に伝える。
- 5 活動の流れ
(1) 活動前に、リードあしやでオリエンテーションを実施。
(2) 各自担当場所で、ボランティア活動する。
(3) 活動後、自身の活動を振り返り。
- 6 ボランティアコーディネートの振り返り

【コーディネートに関して】

- ・職員のシフトを大幅に変更し、混乱させた。
- ・さくらまつりのチラシに参加していない団体を掲載していた。
- ・当日の参加者が事前の連絡もなく、参加者が増えたり、活動後にリードあしや

に戻らず、そのまま帰宅するケースがあった。

- ・当日の仕出し弁当の出ない時間帯の団体に、伝達を間違えて提供した。
- ・休憩所の利用がほとんどなく、ごみ袋の補充の利用が多かった。
- ・1日目は、本部にボランティアの内容を尋ねるような伝え方をした。
- ・ボランティアに、集合場所や持ち物の事前連絡を徹底していなかった。
- ・仕出しの弁当が活動後に提供されるのは、時間帯として遅く感じた。
- ・ボランティア活動で、1時間ごとのシフトを守らない人がいた。
- ・職員が担当する仕事と、ボランティア担当する仕事の範囲を明確に説明した。

【ゴミに関して】

- ・出店のゴミ以外に、スーパーやコンビニのゴミが目立った。
- ・ステージ正面のゴミ箱は、来場者が多く回収しづらかった。

【ボランティア募集に関して】

- ・さくらまつり募集の際、定員を記載していなかった。

【会場に関して】

- ・ゴミ箱を繋げる方法として、クリップではすべりやすかった。
- ・割れたビンがゴミ箱に入っていたので、対処に困った。

7 今後の対応

【コーディネートに関して】

- ・ボランティアに関する連絡は、リードあしやに連絡することを強調した。
- ・今後ボランティアへの弁当提供時間の調整を検討した。
- ・活動内容は、会場内清掃・ゴミステーション管理に専念してもらおう。ボランティア受付・休憩所受付は今後必要か検討。ルナホール前に関しては、警備の方に担当してもらいたい。
- ・さくらまつりチラシの原稿を市と必ず事前にチェックする。

【準備に関して】

- ・市と備品確認の共有を徹底。
- ・ゴミ箱を段ボールで使用したが、雨天時等、あらゆる状況で対応可能か事前確認をする。
- ・備品を市職員とセンター職員で互いにチェックする。

【会場に関して】

- ・犬を連れて来た来場客が多く移動しづらかったので、入場規制等、対策を考える。
- ・自転車は、北側からの侵入の封鎖を徹底する。

【清掃に関して】

- ・ゴミ箱に捨ててあるビンはトングでは掴みにくいので、販売店が回収し廃棄等、対策を検討する必要がある。
- ・ゴミ箱に捨てられた割れたビンの処理方法をどうするか検討する。
- ・ステージ正面側のゴミ箱は、ステージのインターバル中に回収するか、人だかりができない所に移動する。
- ・ゴミ回収そのものについて、関係者で検討する。

【募集に関して】

- ・高校生や大学生への参加を促す。
- ・さくらまつりボランティア募集で、定員があることを明記する。

第28回あしや秋祭りボランティアコーディネーション

1 実施日：平成28年10月9日（日）

- 2 担 当：金子
- 3 会 場：精道小学校グラウンド
- 4 主 催：あしや秋祭り協議会
- 5 参加者数：17名（個人4名、サーフェ5名、尼崎信用金庫3名、甲南高校5名）
- 6 内容について
 - 1) 目的：来場者がごみの分別を学び、基本はごみを出さない、持ち帰ることを理解し、「気持ちのよいきれいな、ごみのない祭りを楽しむ」ことを目的にボランティアをコーディネートする。
 - 2) 内容：ごみ受付、駐輪場の整理、校内ごみの見回り
ごみ受付では、ごみの持参者に企業の協賛品やポケットティッシュをプレゼントし、ごみの分別をボランティアによる誘導と、持ち帰るよう促した。協賛いただいた企業は以下のとおりである。
 - ・ダイエーグルメシティ芦屋浜店 ・マクドナルドJR芦屋店
 - ・INAC神戸レオネッサ ・サーティワンアイスクリーム
 - ・生活協同組合コープこうべ第2地区活動本部
- 7 検証：
 - ・ボランティア活動に関しては、午後に急な欠席もあり定員より少ない状況であった。テントでごみを受け付ける方法をとったこと、行動力のある若者が参加していたため、ごみの収集がスムーズにできた。ボランティアに活動場所、時間、昼食時間など記載した用紙を渡したことで交替も良かった。
 - ・駐輪場に関しては、東側駐輪場に自転車が収まらず警備員の指示により歩道の片側も一部駐輪場とした。3人ボランティアを配置していたが、場所が離れてしまい手薄になった時間帯もあった。自転車の出し入れはボランティアが声をかけ補助していたのが良かった。
 - ・ごみを会場外で捨てないように、ごみ受付テントを祭りの出入り口の2か所に配置した。持参されたごみは、芦屋市のごみ分別にあわせて袋をわけ、ボランティアの誘導のもと、来場者が分別したことで、分別に対する意識が向上したと思う。今回は、初めての試みで企業からの協賛品を一定量のごみを持参頂いた方に渡した。親子で分別し、協賛品を選ぶ姿が微笑ましく良かった。同じ子どもが何度も来ていたので、協賛品を渡す決まりを検討すべきだった。
 - ・ごみに関しては、昨年より半減した。ごみ箱がないことにより、各テントでのごみの回収や参加者の持ち帰りが多く見受けられた。校内の見回りを行ったがきれいだった。わくわくするような協賛品もあり子どもたちが楽しんでごみを拾い、持参する姿がみられた。
- 8 今後の対応：

ボランティアの募集人数、駐輪場の設置場所の見直しおよび、欠席者に事前連絡を徹底する。又、企業の協賛を得る。
ボランティアバッチなどを作り、ごみ持参者に渡すなどしてはどうか。
- 9 ボランティア参加者の感想：

ごみも半減、分別の理解と持ち帰りが見られたこと、ボランティアと来場者の交流もあり一体化して活動している感じがあり全体的に良かった。駐輪場は利用者が多く場所を再検討した方がよいと声があった。

以下は、アンケートからである。

- ・ごみを出す事に意外と協力してくれたので驚きました。
- ・西側は出入りが少ないため、宣伝しながらしたので事前にチラシがあったらと思いました。また、来年も参加させてください。
- ・ごみを家に持ち帰る人も多い様に感じました。
- ・片付けが少しは楽になるのかしら。
- ・学校もきれいになり、プレゼントを渡したら喜んでもらえて良かった。
- ・元気な学生がよく頑張っていて良かった。
- ・自転車の数が多く、止まる場所がなかった。場所をふやせばいいと思う。
- ・ボランティアだけでなく、お客さん達も一体化して活動している様に思えてとても良かった。
- ・持参してもらえるので、沢山の人の顔や話が出来たのでやりがいがあった。
- ・初めての体験でしたが、楽しかった。
- ・またこうした活動を通して、人との交流だけでなく、自分の人間性も成長できるといいなと思いました。



「こまがね市民活動支援センターぱとな」視察受入れ

- 1 日 時：平成 28 年 10 月 24 日（月） 10：30～12：00
- 2 担 当：橋野
- 3 参加者：こまがね市民活動支援協会会長 鈴木
こまがね市民活動支援センター 倉田(所長) 東谷(支援員)
大平(事務局) (特活) あしやNPOセンター 石本理事長・橋野・出口
- 4 内 容：挨拶と自己紹介
広報あしやのDVD視聴（あしやトライアングル平成 25 年オープニング・平成 27 年市民参画・協働）
リードあしやの運営説明（パワーポイント及び報告書）質疑応答
- 5 こまがね市民活動支援センター概要
 - ・駒ヶ根市が提供したテーマを元に、30 人の委員が任期 2 年で月 1 回の市民会議を開催した。
 - ・市民会議から、市民活動センター開設に向かい、市民委員の 15 人が「きらめき 15」グループを立ち上げ、準備会を開いた。
 - ・平成 21 年に公設民営でこまがね市民活動支援協会が業務委託され開設された。
 - ・現在、登録団体は 72 団体、常勤（事務局員）2 人、非常勤（会長、所長）2 人で運営している。
 - ・コンセプトは景観からまちを好きになる。
 - ・ゆるキャラ「パトナ」の作成を近隣の学生と共同作成するなど、センターPR を図るとともに高校、大学と連携し人材の育成をしている。
 - ・年 1 回、地域の地縁団体や商店街と協働しまつりをしている。
- 6 質疑応答
 - Q. 「ぱとな」は現在業務委託だが、業務委託と指定管理の違いは？
 - A. 業務委託は制限がある。指定管理は、仕様書を守りながらも、事業に関しては行政との話し合いの中で、環境に順次変更する等自由度がある。当センターについては、自主事業も含め、事業収入は指定管理者の収益になるように配慮されており、収益は助成金や次の事業に充てることができる。

- Q. 自動販売機や印刷代の値段設定は？近隣への圧迫はないか？
A. 値段設定は、「市民活動を応援する」という目的のためできるだけ安くしている。近隣からの苦情は今のところない。
- Q. 法人の会計の収益はどのように使用している？
A. 機器等のメンテナンス料、法人及び指定管理事業の自主偉業の事業費、助成金などに使用している。
- Q. 「リードあしや」の市内での認知度は？
A. 3年前の調査では2%だった。季刊誌を広くダイレクトメールする、ホームページの改善、そして今年度よりイベントを増やし、来館者に周知してもらうよう努力をしている。口コミが一番効果的だと感じている。
- Q. 会長として市と対等ではないことが悩みであるが、理事長の立ち位置は？
A. 当法人が団体を立ち上げ時（当時は任意団体）に、市が理事を選んだ経緯もあり行政には信頼と信望がある。理事長は、当法人以外にも13の団体の役員も担っており、市長、副市長と話合いや、相談等もできる。
- Q. 日曜日の休館日がめずらしいのでは？
A. オープン時に利用調査をしたが、利用者がいなかったため休館日に設定した。希望団体があれば、相談に応じて時間外利用として開館している。
- Q. 他機関と登録が重複している団体はいないか？
A. ある。各機関によって目的が違うため、目的にあった登録をしてほしいと伝えられている。

第5回「私の悩みとあなたのヒント」情報交換・団体交流会

- 1 開催日：平成28年9月3日（土）10：00～12：00
- 2 担当：奈良
- 3 会場：リードあしや会議室D
- 4 参加者数：5名（5団体）大塚（日本宇宙少年団六甲分団）、小林（芦屋観光協会）、西（託児芦っこ）、長谷川（美味しい読書会ワッタガッタ）、橋野
- 5 内容：自団体・自己紹介、課題の共有、解決のアイデア交換

【課題の共有と解決のアイデア】

	出された課題	議論・アイデア
集客	イベント時の集客のコツを知りたい。	思い込みを避けるためアンケートでニーズを探ってはどうか。 他団体と共同共催すると集客効果が高まる。
メンバー増	これからメンバーを増やしたいどうしたらよいか。	これはと思う人を「一本釣り」。 メンバーが全員で営業する。
中高生の巻き込み	中高生のリーダー育成をどうしたらよいか。	楽しいと思うインセンティブが必要。 仲間同士の結びつきを強めるような仕掛けがあるとよい。分かりやすい活動をする。
子ども集客	イベントに参加する子どもが減っている。	子育てセンター、ファミリーサポートセンター、など子どもが集まる場所で広報するほうが効果的では。
資金源開拓	資金集めをどうしたらよいか。	キッズスクウェアで講師。 会費は安定的な資金源になる。

	助成金は手間がかかるが団体の棚卸になる。
--	----------------------

【担当者の振り返り】

- ・共感や関心をひきつけるための工夫や努力が各団体の取組みに窺える。相手（マーケット）の立場に立って自団体の活動を見直すことができる機会になった。
- ・参加者が少なくなっている。広報の工夫、内容の組み立ての工夫をしたい。
- ・比較的若い世代が初めて参加してくれて新鮮だった。こうした世代の活動が促進される場になるように取り組みたい。

Facebook はじめの一步講座

- 1 実施日：2017年2月18日（土）14：00～16：00
- 2 担 当：奈良
- 3 講 師：NPO 法人しゃらく 大川妙子氏
- 4 参加者数：18名（当センタースタッフ1名含む）
- 5 目 的：ボランティアグループ、NPO がソーシャルメディアを団体の活動に効果的に生かすための知識とノウハウを学ぶ
- 6 内 容：
 - ・ Facebook に慣れるために
 - ・ 活動に活用するために
 - ・ 活用を続けるために など
- 7 評価・振り返り：
 - 1) アンケート結果
 - ①講座内容について：よくわかった 25%、だいたい分かった 50%、分からないところがあった 25%
 - ②今後活用できそうか：活用できそう 37.5%、検討したい 56.25% 難しそう 6.25%
 - ③自由記述として、大変ためになった、分からないところがあるが団体として活用すべきとわかった、などおおむね好評だった。ただし、パワポスライドの字が小さく、見えづらいというコメントも多かった。
 - 2) 今後について
 - ・ さらに聞きたいという参加者もあり細かな具体的な問題については個別に相談を受けていく。次年度については、具体的な方法や、広報媒体としてのソーシャルメディアの活用の仕方などを取り入れて企画を組みたい。

以上